

小麦赤かび病の防除を徹底しましょう！

赤かび病の発病粒が0.0%を超えて混入すると、農産物検査に合格しません。必ず防除を行い、発生防止に努めましょう。

[現在の状況]

農研速報(4月27日,5月9日発表)によると,小麦の出穂期は水戸市では平年並~4日遅く,龍ヶ崎市では平年より1~5日遅かった(表1)。なお,3~4月の低温により,農研所内麦類において,幼穂凍死が一部見られた。

5月に入ってから,曇雨天で気温の高い日が多く,本病の感染・発病に適した条件が続いている(表2)。特に小麦では,感染しやすい時期(開花期)に感染好適日が出現している状況である。向こう1か月の気象予報(5月6日発表)によると,気温は平年並か高く,降水量は平年並,日照時間は平年並と予想されている。

表1 小麦および六条大麦の出穂期(農業研究所)

麦種	品種	播種期	出穂期(水戸市)		出穂期(龍ヶ崎市)	
			本年	平年	本年	平年
小麦	農林61号	11月上旬	4月29日	4月25日	4月24日	4月19日
		11月中旬	5月2日	5月2日	4月25日	4月24日
六条大麦(参考)	カシマムギ	11月上旬	4月18日	4月14日	4月14日	4月9日

表2 赤かび病の子のう胞子飛散好適条件の出現状況(水戸市)

日付	4月														5月												
	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
子のう胞子飛散好適日																											
日最低気温 10 以上																											
日最高気温 15 以上																											
湿度80% 以上																											
降雨日とその翌日																											

: 子のう胞子の飛散好適日

: 子のう胞子の飛散好適条件(日最低気温 10 以上,日最高気温 15 以上で,湿度 80%以上か降雨日とその翌日)

[防除対策]

播種時期によって生育ステージが異なるので,圃場ごとの生育状況をよく確認する。生育が遅く,5月上旬に出穂・開花期を迎えた小麦については,感染好適日が多いため,開花期における1回目防除の7~10日後に2回目の防除を行う。ただし,出穂期以降1回しか使用できない薬剤があるので注意する。

薬剤の選定は病害虫情報 No.15(平成23年4月7日発行)等を参考にする。農薬を使用する際には,使用薬剤の収穫前日数,使用回数に十分注意する。

凍霜害を受けた麦は本病に感染しやすく,被害部位及び遅れ穂から発病が広がる恐れがあるため,特に注意する。